

教官の学内役職

渡辺先生 紀要編集委員 予算委員 大学院委員会委員
松井先生 地理学科主任 図書館運営委員 図書選定委員 教務委員 入試委員
浅井先生 1年生補導委員 施設計画委員
浅海先生 4年生補導委員 建築委員長 学生会館運営委員長 ラジオアイソトープ実験室準備委員
式 先生 3年生補導委員 臨海実験所準備委員
正井先生 2年生補導委員

教務補佐員

教務補佐員の配置状況は下記の通りである。

伊藤 敦子 (本学昭 4 2 卒) 人文地理学
山本 蓉子 (本学昭 3 9 卒) //

二瓶 直子 (本学修士昭 4 4 卒) 自然地理学
杉木 良子 (本学昭 3 0 卒) 自然地理学及び図書整理
谷 浩子 (本学教育昭 4 1 卒) 自然地理学
馬場由美子 (本学修士昭 4 3 卒) 地誌学および空中写真整理
林原 陽子 (本学修士昭 4 3 卒) 地誌学

学 会 関 係

44年4月26～29の4日間にわたって、1969年度日本地理学会総会および春季学術大会が行われた。26、27両日はオリンピック記念青少年総合センターにおいて研究発表が行われた。本学関係の発表者は次の通りである。浅井辰郎先生：佐梨川における積雪と出水に関する調査(1)主として積雪について。(2)主として融雪出水について(新井正・立石由巳・山辺功二・長谷川力・平山光衛・西沢利栄市瀬由目・高山茂美・鈴木隆介氏と共同研究、平田茂子氏(12回生)：大間々扇状地の地下水—特に地下水の塩素分布について、長瀬睦子氏(1回生)：水戸附近の地形について 瀬戸玲子氏(2回生)：標準メッシュの設定とメッシュ法によるデータの処理の例(その1)(高崎正義・上西時彦氏と共同研究)。巡検は、信濃川中流部の地形と地殻変動、多摩丘陵特に大栗川流域の水文・地質・地形、東京中心部の変容と再開発、国土地理院と水路部の見学の4班に分れて行われた。

秋季大会は大学紛争のあおりで、直前に会場が宮城教育大附属中学に変更になったりしたが、ともかくも10月9日には都市地理、農業地理、計量地理、水文学、地理学と教育、の5つの研究委員会が開かれ、瀬戸玲子氏(2回生)がメッシュ法による国土の基本資料の整理の諸問題(山崎寿男氏と共同研

究について発表した。翌10日には仙台地区の2つの現地討議と、広域中心都市、東北日本の農業の変化、日本における気候地形の3つのシンポジウムが行われた。この中日本における気候地形の部門で、本学の浅海・式両先生の次のような発表が行われた。浅海重夫：気候地形と土壌、式正英：日本の氷河地形およびその関連地形。続いて11、12両日には福島・郡山・いわき、三陸海岸、奥羽山地と横手盆地、蔵王・日鷹・置賜地方の4コースに分れて巡検が行われた。

昨年5月5～9日の5日間マレーシアのクアラルンプールで、太平洋学術会議の地理部門の Inter-Congress Meeting が行われ、渡辺・正井の両先生が出席された。また正井先生は1月10～26日まで、日本地域開発センターの依頼により、タイ・ラオス・カンボジアに出張された。

同窓会関係

1969年11月23日(日)、本学名誉教授、元地理学科主任教授飯本信之先生が勲三等旭日中綬章を授与されたので、その叙勲祝賀会が、地理学科同窓会を中心とする有志の方々によって、桜蔭会館で、午後2時より4時まで行なわれた。飯本先生は女高師時代より併せて本学に36カ年在職され、女子教育にあたられたこと等の功績により今回の叙勲となったもの。参加者は、福井英一郎、籠瀬良明、山鹿誠次、大和田順子及び本学地理学教室の渡辺光、松井勇、浅井辰郎、浅海重夫、正井泰夫、貝山久子の諸先生を初めとし、女高師時代に飯本先生の教えを受けられた方々では附属高校長関根慶子先生、森本元子先生、附属中学校の酒井綾子先生、和田とく子さん等であり、地理学科の同窓生では第10回以前の会員24名であった。記念として参加者全員のサイン入り色紙と紅・白二つの鉢植の花が贈られ記念撮影も行なわれた。大変お健やかな飯本先生を囲み、短時間ではあったが、和気藹々のうちに閉会となった。

祝賀会に先だち、第9回地理学科同窓会は12時30分より2時まで同会場で行なわれた。会は先生方の講話、会員の自己紹介の他、今回は特に浅海重夫先生による小笠原諸島のスライド映写会が行われ好評だった。浅海先生は近年二回にわたり、東京都による小笠原諸島の自然公園建設の為の調査に参加された。